

令和6年度前期学校評価アンケート分析

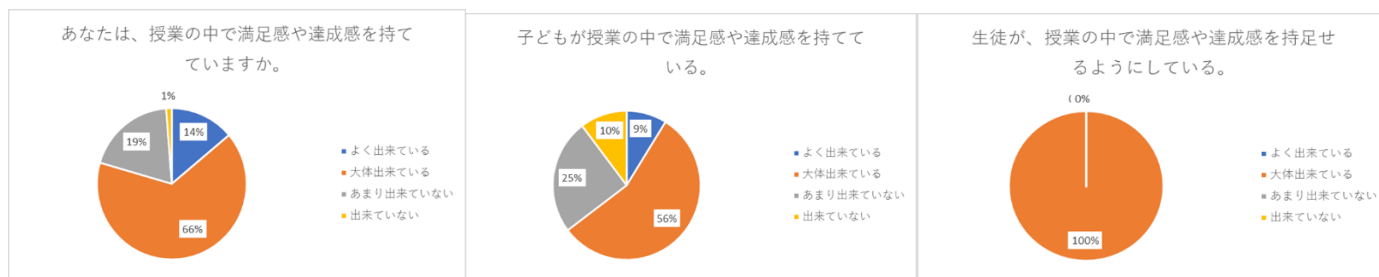
(1)「確かな学力」の育成に向けて

平素の授業における発表や学校行事での様子から、話す、聞く態度は各学年とも成長が見られる。また、授業で満足感や達成感を持っている生徒は約80%と昨年度よりさらに約3ポイント上昇した。約87%の生徒が授業において教師が工夫や努力をしてくれていると感じている。

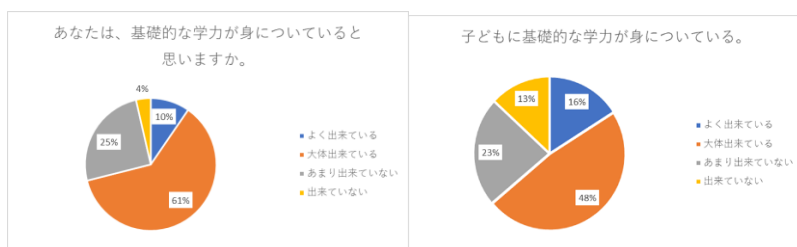
生徒

保護者

教職員

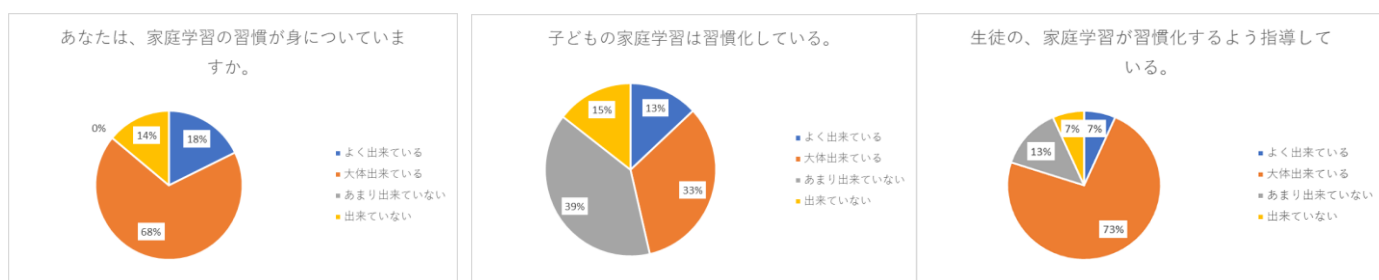


こうした生徒の高評価に対して、「基礎学力が身についている」ことについては、肯定的意見が71%である。

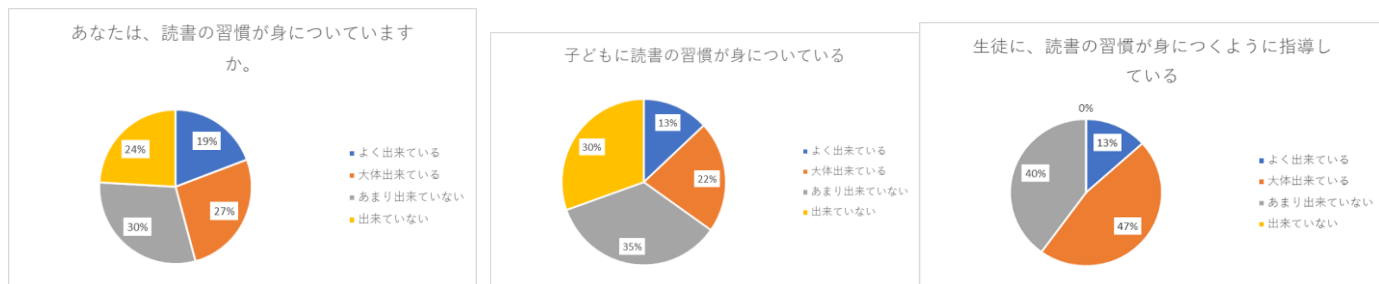


このことは、基礎的な学力が身についているという実感が持っている生徒は71%である。このことから生徒にとって興味関心を引く授業であるが、基礎的な学力が身についているという実感を持っていないと感じている生徒がいる。このことより授業改善を必要としている教科がある。

また、家庭学習については保護者の意識は生徒のそれと乖離しているが、教職員と生徒との評価は少し近い関係にあることから、宿題＝家庭学習として評価していることがうかがえる。自発的な家庭学習をどのような形で習慣づけることが課題となるようである。このことから、家庭と連携をしてより良い家庭学習の習慣化を図っていきたい。

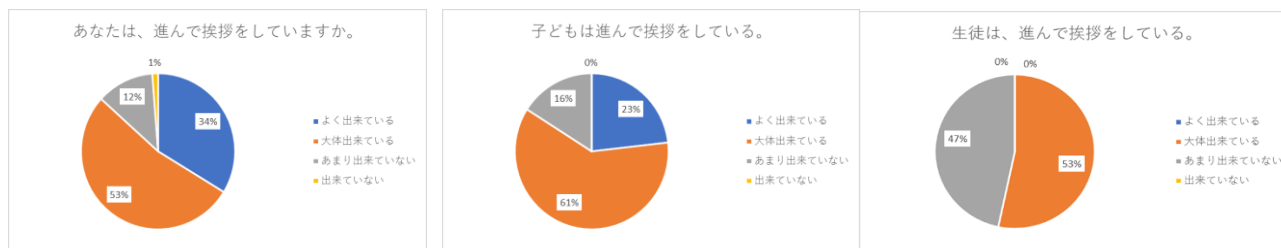


読書の習慣は46%であり低い状況が続いている。

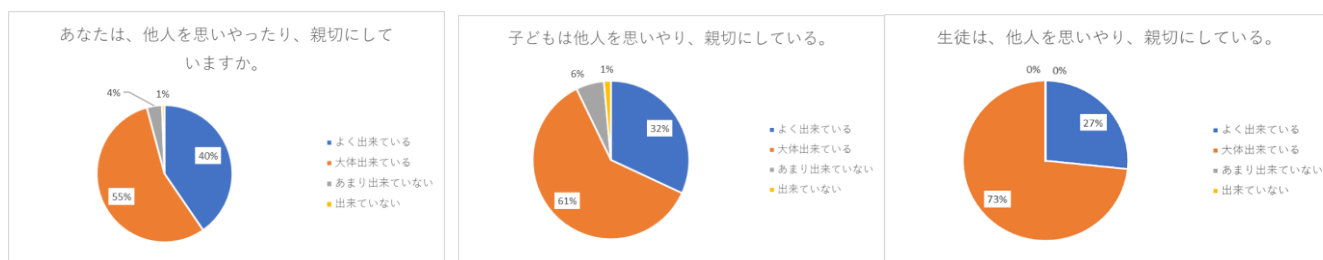


(2)「豊かな心」の育成に向けて

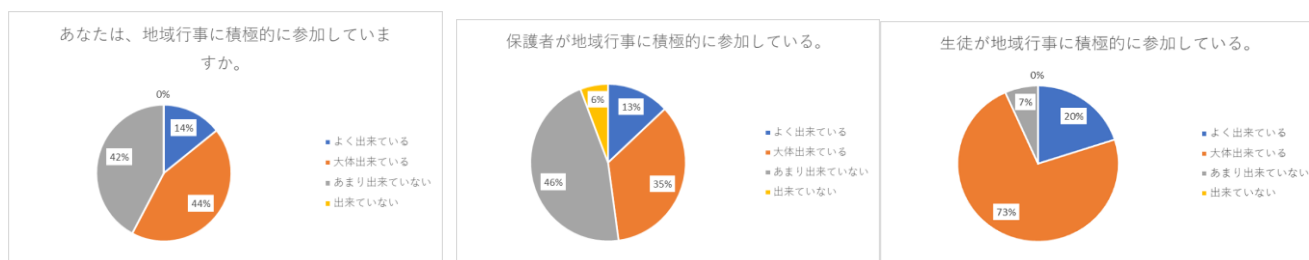
進んで挨拶をしている」については、生徒の肯定的回答は昨年度と同じである。自分から気持ちの良い挨拶をしてくれる生徒も多いが、実際に挨拶をしても返せない生徒もいる。普段から地域での挨拶がしっかりでき、保護者や地域の方が学校に来られたときにも進んで挨拶ができるようにしていきたい。



「他人を思いやり、親切にしている」については、昨年同様生徒の肯定的回答は約 95%と高く、本校の道徳教育や人権教育の成果が見られる。

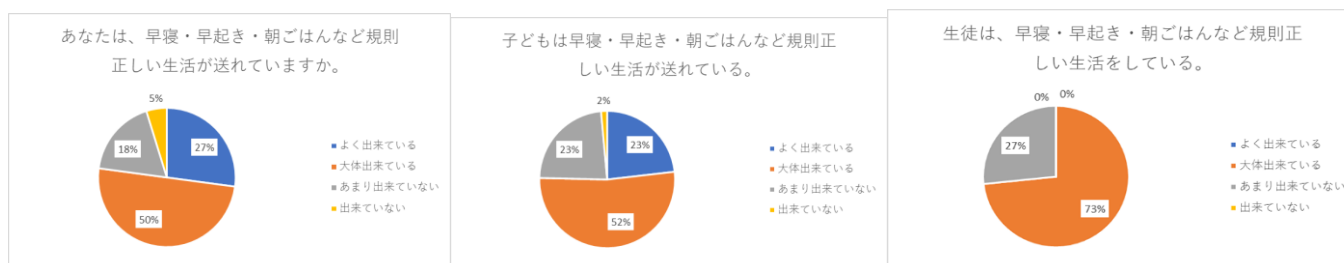


「地域行事に参加している」は昨年度と比べて生徒は 12%・保護者は 10%も低下した。



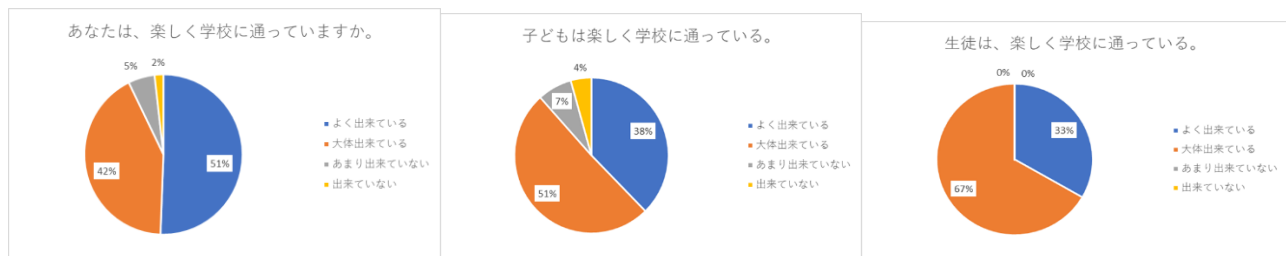
(3)「健やかな体」の育成に向けて

「早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送れている」では、生徒の回答は昨年と同じ時期に比べて 6%減少した。また、保護者は 4%増加しており、意識の差がほとんどなくなっている。今後も家庭と連携して、規則正しい生活が送れるようにしていきたい。



(4) いじめの防止等についての取組に向けて

本校では概ね楽しく学校に通えているが、いじめアンケートの「友だちからされたことで、いやな思いをしたことはありますか。」の設問に「はい」と答えた生徒は 0 人ではなかった。



また、「先生に気軽に質問・相談しやすい。」という項目について生徒・保護者の肯定的な回答が減少している点が課題である。また、教職員は相談できる体制を作っていると感じているが、生徒の20%・保護者の29%がそう感じていないことが大きな課題である。これからも100%を目指せるように取り組んでいきたい。

